

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【概況】

●28日、米政権は今週、ベネズエラ産原油・ガスの輸入国に対する追加関税賦課や、輸入車への追加関税措置を発表。4月2日には貿易相手国に同水準の関税を課す「相互関税」の詳細発表を控えており、景気見通しへの警戒感が広がる中、原油は売りが優勢となり相場は**69.36**ドルへ3日ぶりに反落した。

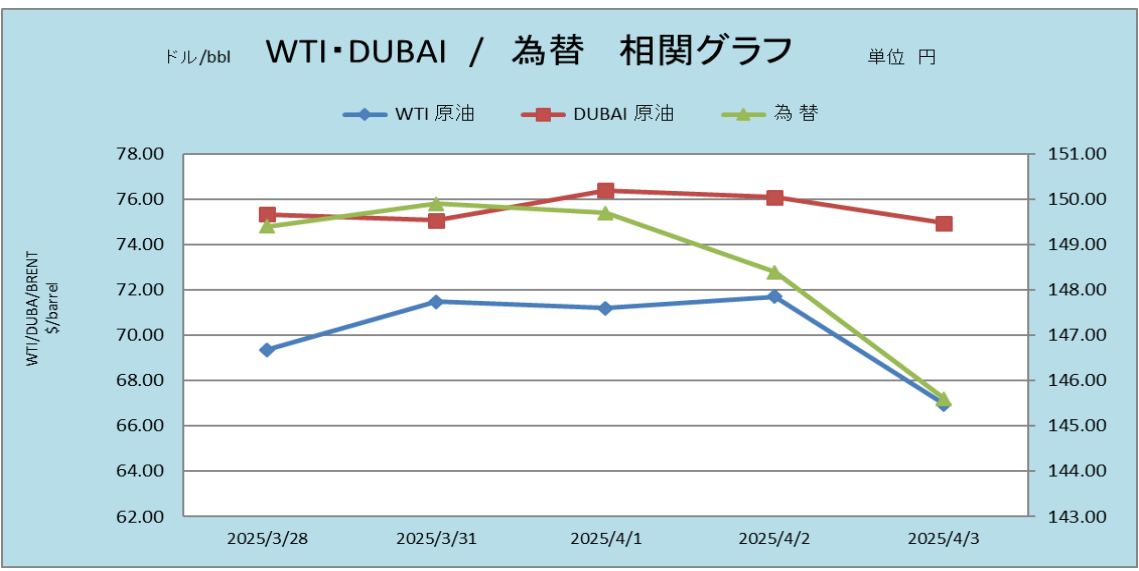
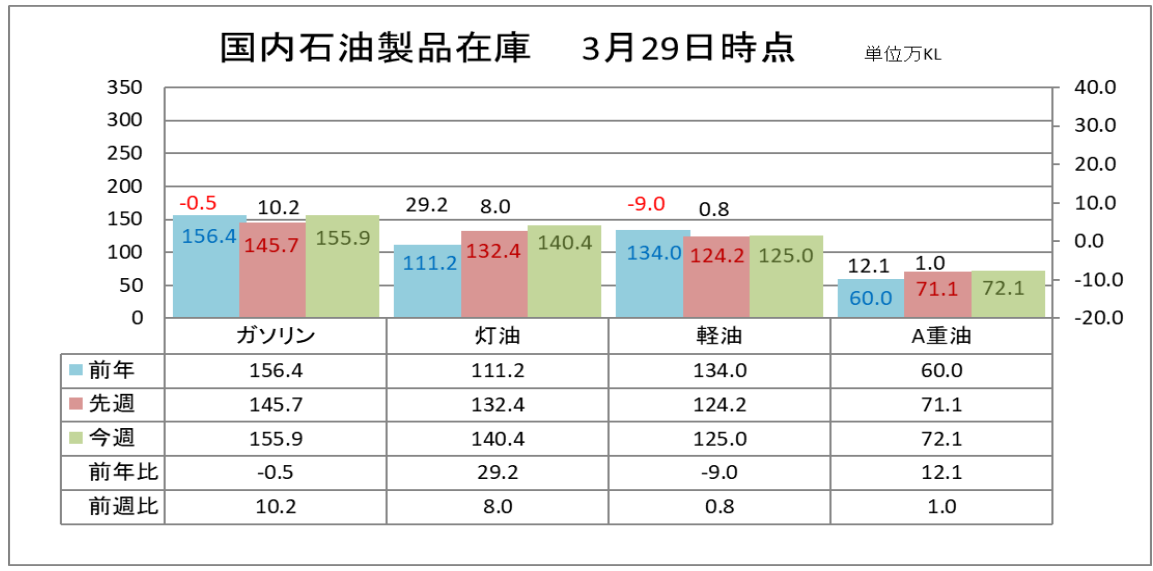
●31日、トランプ米大統領は30日、国内メディアの電話インタビューに応じ、ロシアのプーチン大統領へのいら立ちを表明。任期切れを理由にウクライナのゼレンスキー大統領との交渉を拒むことで、停戦協議を長引かせようとしていると批判した。また、核開発問題で対立するイランについても言及。それぞれがディール（取引）に応じなければ、ロシアに対しては同国産原油に最大50%の関税賦課、イランには核施設への軍事攻撃を辞さないなどと警告。主要産油国である両国との緊張が一層高まれば、石油供給リスクが生じるとの懸念から相場は**71.48**ドルへ反発した。

●1日、トランプ米大統領がロシア産石油に関する追加制裁を導入するとの懸念や、イランの核問題解決のため同国に対する軍事的圧力を強めるとの警戒感を背景に供給不安がくすぶり、午前の相場はおおむねプラス圏を維持していた。一方、米サプライ管理協会（ISM）がこの日発表した3月の米製造業購買担当者景況指数（PMI）は49.0（前月50.3）に低下。市場予想（49.5＝ロイター通信調べ）も下回った。景気減速が石油需要減退を招くとの連想から、相場は売りに押され**71.2**ドルへ反落した。

●2日、トランプ米大統領は2日午後、ホワイトハウスで演説し、相互関税に関して詳細を発表する。米メディアは、国・地域ごとに関税率を設定する案やほとんどすべての製品に一律約20%の関税を課す案など複数案が浮上していると報じた。追加関税導入により景気停滞やエネルギー需要鈍化を招くとの警戒感が広がる中、相場は朝方、軟調に推移した。ただ、米株式相場で先行した売りが一巡し、株価がプラス圏で堅調に推移する場面では、米株式と並ぶリスク資産とされる原油にも買いが波及し相場は**71.71**ドルへ反発した。

●3日、トランプ米大統領は2日夕、ほぼ全ての輸入品に一律10%の関税を賦課するほか、60余りの国・地域別にさらに関税を上乗せする方針を発表。各国はこれに強く反発し、互いに関税をかけ合う「貿易戦争」が激化するととの警戒感が広がっている。石油・ガスなどは相互関税の適用品目から除外されたものの、世界経済が深刻な打撃を受ければ、エネルギー商品需要にも影響が及ぶ見通し、加えて、石油輸出国機構（OPEC）加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は3日未明、オンラインで会合を開催し、4月から開始した自主減産枠の縮小ペースを速めることで合意。5月は実質的に日量41万1000バレルの増産となる。これが需給の緩みへの警戒感を一層強め相場は**66.95**ドルへ反落した。

4月4日 16:00現在 WTI原油 66.03ドル 為替 1ドル 147.03円



	次回元売変動予測	
	4/10～	元売変動予測
ガソリン	➡	-0.7～-1.2
灯油	➡	-0.7～-1.2
軽油	➡	-0.7～-1.2
A重油	➡	-0.7～-1.2
LSA	➡	-0.7～-1.2

※原油コスト「-1.5円～-2.0円」
※激変緩和補助金「-5.0円」 前週比+0.8円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+4.5円」、補助金は、「-5.8円・0%」、都合「+2.5円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの31日時点の小売価格平均は184.5円となっている。

《4月10日以降》次回の元売り改定は、原油コスト（OSP含む）は「-1.5円～-2.0円」、激変緩和補助金は「-5.0円・0%」の見込みで、都合「-0.7円～-1.2円」の改定予測となっている。

【次世代エネルギー】 < 三菱重工、500kW級レシプロエンジンで水素100%運転を達成 >

三菱重工グループの三菱重工エンジン&ターボチャージャ（MHJET、神奈川県相模原市）は3月12日、発電用レシプロエンジンに水素100%の燃料を用いて定格出力による運転を達成したと発表した。相模原工場内に設置した、出力500kWクラスの水素専焼エンジン発電・実証設備において達成した。

エンジン、発電機、補機類を含むシステム全体を検証した。エンジンの起動から、435kW、1500回転の定格出力までの発電、および停止動作までの実際の運用と同様のシーケンス（事前に設定した連続的な制御）で、一連の動作をすべて水素100%燃料で安定的に運転でき、異常時の保護機能などが有効に機能することを確認した。

水素専焼エンジンは、新たに自社で設計・製造した6気筒レシプロエンジンで、シリンダー径は170mm×ストローク長220mm。補機類には、水素の燃焼性が高く静電気程度のエネルギーで着火し燃焼範囲も広いといった特徴に対する安全機能を追加した。燃料には、山梨県甲府市の米倉山電力貯蔵技術研究サイトでメガソーラー（大規模太陽光発電所）の電気で作成したグリーン水素を使用した。

MHJETでは、発電システムの設計、製作、実証までの工程を自社工場内で完結できる開発体制を構築しており、実証試験で得た結果を迅速に製品に反映できるという。今後、信頼性評価や安全性評価を引き続き実施し、2026年度以降の製品化を目指す。